

### 新潟県の小学校における 「いきいきスクールプラン」

高橋 武昌

一、だれのためのいきいきスクールか  
(はじめに)

「新潟いきいきスクールプラン」は、新潟県第六次総合教育計画のひとつとして出されたものである。その主目的は次の五つである。①二一世紀にむけて新潟県オアシス構想の実現 ②生涯学習の推進 ③未来を担う人材育成 ④中期的見通しに基づく教育行政の推進 ⑤当面する県教育の課題解決(学力向上・登校拒否対策・高校中退対策)

これらは、当面する県教育の課題として現場では受けとめられがちだが、本当のところ、県教育行政の矛盾の帰結であり、当局のそれなりの危機感に基づいた施策ではあるが、同時に臨教審体制の新潟県版だといふことを後述したい。

金権まみれの金子県政が描いた「オアシス構想」の教育版であることは周知のとおりであるが、平成三年から平成七年までの五か年計画として示されたこのプランは、推進の三つの柱を次のようにかかげている。

①活力ある社会を築く生涯学習の総合推進



② いきいき学べる学校教育の充実

③ いきいきのある生活を築く社会教育・文化・スポーツの振興

しかし、いま、急がれるのは「子どもと教職員が生き生きする学校」をつくるための具体的施策であろう。それを列記すると、

(1) 研究指定校をふやすのではなく、登校拒否が生まれるような息苦しい、忙しいつめこみの学校を変えていく。研究指定校は県段階で、六一年から平成二年に至るまでに五・四倍に増えている。しかるに前記プランは、さらに全県を研究指定校化するというものだ。本県の登校拒否児童・生徒は、今年は一三〇〇名に達し、全国の割合より増加の傾向がみられることに注目しなければならない

(2) 教職員をふやし、教育条件の整備をはかる

(3) 学校五日制・週休二日制の実施の中で、ゆとりある子どもと教師の生活を築く

(4) 新学習指導要領の早期見直しと指導内容の精選をはかる

ということになるが、このことこそが、生き生きした学校をめざして、今必要なことである。

二、「いきいきスクールプラン」指定のなかみは現場になじむのか

M小学校の「いきいきスクール・プロジェクト」実施計画書によれば、年度の課題が「体験的活動を生かして、児童をいきいきと授業に参加させるためにはどうすればよいか」である。体験的活動を生かした教育方法というが、それは全くあたりまえのことで、私たちは日常の授業の際にも、具体と抽象のツウエイを常にはかることに心している。低学年であれば、数の操作や文学指導や単語指導などで、常に具体物・半具体物を利用して授業をすすめている。また児童会活動や集団づくりにおいても体験的チャンスを必ずつくる努力をしてきている。あえて、プラン導入で強調しなくてもすむことだ。プロジェクトの内容としては、①基礎学力を体験的活動とむすびつけて向上させること ②体験的活動が授業に生かされるための工夫 ③外国と姉妹校になり交流する…の三つが挙げられているが、そのために年間約一三〇万円（三年間で三九〇万円）がこの学校に配当されるということだ。

(1) 新たな学校管理体制へのくみかえ

県内の小中学校では、研究指定校（または協力校）

の数が多い。新潟市だけでも三分の二の学校が該当している。いままで研究指定校などはほとんどなかった高等学校等においても、「とにかくむずかしいことではない。予算は自由に使ってよい」といった風聞に乗って、「いきいきスクール」が導入されてしまった。これだけみても、新たな管理体制をいとも簡単に持ち込んだことになる。従来新潟市においては、研究指定校をひきうけるにあたっては、当局と現場との合意を前提にしていた。しかし、「いきいきスクール」はこの関係を破って現場に入ってきた。しかも、校長・教頭・教務主任が直接その推進の中心にすわり、今までの校内の分掌はいじらないでやるのだという。新たな研究だとすれば分掌をどうするかということなどで、職員間に討論も生ずるが、一切それを必要としないというのだから職場づくりの点ではこれも弱点となった。『新潟県教育月報』特集「いきいき新潟教育プラン」（平成三年七月特別号）の「いきいきスクール・プロジェクトの推進」の項では、「一人一人の教職員を日々の教育課題の前に孤立させ、その取り組みを空回りさせてはならない。校長は教職員一人一人の教育実践を見据え、その資質・指導力及び個性を最大限に生かしながら学校の教育課題解決のため、このプロジェクトを推進する必要がある」と述べている。しか

し、校長、教職員一人一人の教育実践の課題を理解するための、校内の民主的研究体制をつくっていないし、その努力などほとんどしていないのが現状である。

校長は、学校の教育課題に対して教職員にアプローチはさせ得るにしても、教職員一人一人の日々の授業や教育活動の悩みを、必ずしも理解していないばかりか、適切な指導などはほとんどできないのではないかと思う。

## (2) 予算執行の問題

「いきいきスクール」の実施校には、年間一クラス当り六万円（従って学校全体では六万円×クラス数分）の予算が計上されている。自由にこの予算を使えると思っていたら、そんなことはあり得ず、活動内容がチェックされ、予算執行には様々なクレームがつけられる。たとえば、バス料金支払のチェック、備品購入のチェック、講師代支払いのチェック（人数とか金額）が次々と出てくる。さすがに、その中心にいる校長ですら、「困ったものだ、もっと自由に執行させてもらえないか」とぼやくほどだ。

ここで肝心なことは、全県で実施された際、必ずそのチェックに、ある一定の方向性が生まれてくるだろうということである。やはり、「臨教審路線・生涯学

習路線」に沿って、奉仕活動・コンピュータ学習・「生活科」推進・習熟度別学級・高校多様な施策等については執行を易くし、その他は制限されていくだろうと予測される。

さらに又、数千万円この予算執行は、他の教育費への圧迫を招くと共に、半額を負担する市町村財政にも影響するだろう。現に市町村段階の教育費への圧迫もすでに出始めているとも聞く。

### (3) 校内の諸行事と部活動の精選の問題

「いきいきスクール・プロジェクト」の推進に当っては、時間の関係も大きな問題となる。管理職からは「是非この際、行事の見直しと部活の精選をはかりたい」旨の話もあったが、行事はどれも大切で、そう簡単に切り捨てるわけにはいかない現実があるし、部活においてもその精選はむずかしい。一校のみが精選して納得できる状況でないことは、全市、全県が過熱の一途をたどっている部活であるだけに、そう簡単には事が運ばない。「学校五日制」実施と、部活の練習がますます過熱してきている中でのことである。

### (4) 体験的実践の危険な側面

『新潟県教育月報』特集「いきいき新潟教育プラン」

ン」(平成3年11月特別号)で、具体的に各学校の実践例が紹介されている。そのすすめ方の例をみると、「教育課題について、年齢や分掌にこだわらず、先生方の自由な発想を生かすというのがある。たとえばコンピュータのソフトづくりについて、若い先生が集まって研究している例などもある。これは、一見自由で何でもやりたいことを、いままでのやり方にとらわれずやれる——」そのことを援助していくのが「いきいきスクールプロジェクト」だ、といっている。それは今、企業がすすめている、日常的にプロジェクトをつくり自由に討論させ、新しい機種をつくり上げる、という方法ととてもにている。教職員の多様な発想と方法に依拠するかのように見せながら、実は指導要領の枠の中で、教育条件の整備(とくに三五人学級などの未実施)には一切耳をかさず、上意下達の内容を子どもに押しつけようとしている点をのがしてはならない。

### (5) 新潟県における企業要請とその背景

「いきいきスクールプラン」は、大まかにいえば、臨教審体制の新潟版ではあるが、具体的には、どのような政治的・経済的背景の中から出てきたかは、いがた県民教育研究所や大学関係者の研究にまっところ

である。

新潟県の大学教育の方向、そして高校の多様化状況も併せて研究していかなくてはならない。例えばバイオテクノロジーの校内研修なども高等学校での事例には含まれている。「新農政プラン」が農水省から示されたことと相まって、新農業研究所構想などもとりざたされている。県行政と企業と教育現場が多収獲の一方法としてバイオテクをとり入れるべく研究をすすめている。育種のために、紙おむつでおなじみの膨張剤の利用などがすすんでるが、このあたりになるとあまりにも私たちは産業関係について知らないことが多い。こうした背景を科学的につかみながら教育の中で見直していく必要があるのではないか。

(6) 「いきいきスクールプラン」について教職員組合は何をしたか

新潟県教職員連合（新潟県教職員組合・新潟県高等学校教職員組合）は、昨年二月一九日、「いきいきスクールプラン」について県教育委員会と交渉をしている。年度初め出された施策プランなのにあまりにも対応がおそすぎた。職場でこのプランが校長から教職員に提示されたときは、すでに県教委に計画を上げる段階に入っていた。また県教委は「一方的に学校を指定

することはない」と回答しているが、実際には校長会を通して県下各学校に指定校のわりふりが行われている。もうすこし正確にいうと、インフォーマルの教育グループが地域と学校を指定している。現場の校長が教員に、「なかまのグループの方からたのまれた。仕方ないので何とか納得してくれ」と言っているところもある。新潟市においては、こういう事情であろう

とこうした場合、教職員との合意の上で引き受けることになっていたのだが、その慣行を破ったばかりでなく、組合がこの歯どめの役目を果たさなかった。その後、どんな交渉をしたのかもほとんど聞こえてこない。

(7) 「いきいきスクールプラン」をのりこえる学校づくりを

M小学校では、このプランを受けてから、行事の精選・見直しをはかった。これまでやってきた音楽会は、各学年が、毎月朝会時に発表することにして、時数の確保をはかった。音楽鑑賞会・演劇鑑賞会などは確かに授業時数をつぶすが、それには替えられない意義があることを確認しあった。

文化祭は、従来は作品展示とPTAによるバザーで終わっていた。そこで、文化祭をもっと子どももののものに“を合言葉に、子どもに異年齢の仲間づくりと豊



### 三、学習交流会「いきいきスクールプランで 学校はいきいきするか」（まとめ）

新潟市教職員組合は、他団体や高校の教員とも連け  
いて標記の学習会を開いた。そのときの、新潟大学  
教育学部・阿部好策先生からの助言はとても印象的で  
あった。

「いま、教育学部の学生は教師になりたがらない。こ  
んなにも大変な仕事ならとてもやれない」とみんな言  
っている。それなら『いきいきスクール』の予算を、  
子どものためという前に、先生方がもっと快適に仕事  
ができるようにするために使ったらよい……その上に  
立って、現場の自由裁量が残されているのだから、積  
極的にとり入れることのできる方針をもち、お金をも  
らうこともできる。

次回の学習交流会には、研究所・研究者も加わって  
いただき、大らかに反撃する力を得たいと思っている。

（たかはし たけまさ）新潟市・南中野山小学校



### 第6回にいがた県民教育研究所研究集会予告

- 〔集会テーマ〕 「豊かさ」のなかの子どもたち
- 〔と き〕 1993年2月20日（土）～21日（日）
- 〔と ころ〕 第1日（20日）新潟市明石 ニュー越路  
第2日（21日）新潟中央公民館
- 〔記念講演〕 「豊かさ」のなかの子どもたち  
講師…正木 健雄 氏（日本体育大）
- 〔パネディスカッション〕 「ゆたかな国」の学校5日制  
パネラー…矢野 教 氏（新潟大）他
- 〔基調報告〕 人間の破片ではなく  
報告…八木 三男（いしか県民教育研究所所長）
- 〔分科会〕 ①「ゆたかさ」と家庭 報告…木村 隆利  
②通知表が変わった 報告…片岡 弘  
③学校5日制と地域・行政 報告…小熊 隆氏他